

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1272100221		
法人名	社会福祉法人 旭友会		
事業所名	グループホームメタセ		
所在地	千葉県習志野市新栄1-10-2		
自己評価作成日	平成30年10月15日	評価結果市町村受理日	平成31年2月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2-10-15		
訪問調査日	平成30年11月27日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

入居者1人1人の残存能力に合わせた日常生活の支援を目指しています。掃除や洗濯、調理なども職員がサポートしながら皆で行っています。  
 季節を感じて頂けるように日々の散歩や四季折々の行事、製作などにも力を入れています。夕涼み会や敬老会、年末の大掃除等、ご家族参加型の恒例行事には大勢のご家族様にご参加頂き、日頃よりご家族様に支えられてのグループホームだと感じています。  
 複合施設ならではの利点をいかし、他部署の行事にも積極的に参加しています。隣接しているケアハウスの入居者様が週に2回ボランティアに来て下さり、他にも地域ボランティア、中学生の職場体験、教員実習生の受け入れ。近隣の幼稚園行事への参加等、地域交流を大切にしています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

1) 充実した研修でスキルを身に付けた職員が「居心地の良さ・五感を刺激するケア・誉めるための要素の提供・人生の質を高める」との基本方針を日々のケアでチームワークよく実践している。2) 季節ごとのイベントや地域行事・併設施設のイベントへの参加など刺激のある生活環境づくりをしている。3) 掃除、洗濯、調理や片付けなど入居者一人ひとりができることに目を向け、生き甲斐を感じながら自立した生活を続けられるよう個別の生活支援に取り組んでいる。4) 夕涼み会、年末の大掃除など家族参加型のイベントを多く実施し家族との連携を大切にしている。5) 働き方を工夫し働きやすい環境づくりに力を入れている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルームに運営方針と共に介護理念を掲示する事で共有、実践につなげている。又、会議等を通じて理念の確認を行っている。	運営方針、介護理念と「居心地の良さ・五感を刺激する・誉めるための要素の提供・人生の質を高める」との基本方針を掲げている。毎月のグループホーム会議には全職員が参加し、理念や基本方針の実践状況などを話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加や、近隣への買い物や散歩での挨拶、運営推進会議等を通し地域交流をしている。中学生の職場体験、教員実習生の受け入れ。ボランティアも積極的に受け入れている。	複合施設の特性を生かしたデイサービスやケアハウスの皆さんとの交流。中学生の職場体験や幼稚園との交流。地域のお祭りや避難訓練への参加。教員実習生や地域ボランティアを多く受け入れている。RUN供やオレンジカフェへの参加。近隣での買い物や散歩時の交流など、地域によく溶け込んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	RUN供、ならしのオレンジテラス・メタセカフェへの参加。キャラバンメイトとして近隣の事業者や小・中学校にて、サポーター養成講座を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でグループホームの現状を報告し、外部出席者から質問やアドバイスを頂き、情報交換などを行っている。	地域包括支援センター職員、介護相談員や入居者の参加を得て2ヶ月1度定期的に開催している。入居者に関する活動内容と職員に関する活動内容などを一覧表にして判り易く運営状況として説明している。出席者から評価、助言や要望をいただき運営などに活かしていることが議事録から読み取れる。	運営推進会議議事録を行政や家族へのアピール材料として活用することを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	常日頃から密に連絡を取っていないが、必要に応じて連絡を取っている。	地域包括支援センター職員は毎回運営推進会議に出席いただいている。介護保険課担当者とは事故報告など必要に応じて連絡を取り、また、RUN供の実行委員を務めるなど協力関係は築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内で開催される研修で学んでいる。身体拘束に関する資料を部署内に置き、理解している。	3か月に1度、法人のリスクマネジメント会議に担当者が出席し身体拘束廃止・高齢者虐待防止に関する議事録と資料を使ってグループホーム会議で伝達研修を行っている。虐待予防チェックシートも活用し、特にスピーチロックに関してはお互いに注意し合うようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内で開催される研修で学んでいる。身体拘束に関する資料を部署内に置き、理解している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内で開催される研修で学んでいる。他部署専門職より資料をもらい、職員間で共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書・重要事項を含め、丁寧に説明をして同意を得られるようにしている。法律改定時は書面・口頭にてご家族へ十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には日常の集団・個別コミュニケーションで要望・意見を伺い、家族には家族参加型の行事や、面会時に意見や要望を伺っている。年に1回アンケートを実施している。	写真入りのメタセ新聞と毎月のホームでの生活の様子や行事などを手書きで家族に送付している。花見の会、夕涼み会、敬老祝賀会、年末大掃除会件忘年会などと家族参加の行事を多くし、いつでも気軽に意見や要望を話していただけるよう工夫している。食事が知りたいのご意見に献立表をお送りするようにするなど反映させている。毎年家族アンケートも実施している	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回のグループホーム会議にて、意見交換をしている。常時職員間のコミュニケーションを密取っており、連絡・相談ノート等も活用して情報共有を図っている。	毎月のグループホーム会議には全ての職員が参加し、業務改善をテーマとして取り上げ、職員から活発な意見や要望が多く提案される。マニュアルの変更やシフトによる業務内容に変更などの提案を運営に反映させている。スキルアップ計画評価シートに基づく公平な評価を行うとともに個々の事情を反映した働き方に配慮するなど働きやすい環境づくりに努めている。また、年間研修計画に基づく研修を着実に実施するなど職員育成にも力を入れて取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スキルアップシートにて、個々の目標を把握し必要に応じて面接を行っている。常に環境や整備の改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設として年間計画の中で、研修・勉強会等で学んでおり、外部の研修にも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	RUN供、ならしのオレンジテラス・メタセカフェの参加を通じて、他事業者と連携し活動を行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族からご本人についての情報を聞いたうえで、本人とマンツーマンでゆっくり話す機会を設け、話しやすい環境・関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前の面接の際に、家族が困っていた事や今後の不安に思う事を傾聴し、信頼関係が築けるように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族から話しを伺い、必要ならば他サービス等の説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除・洗濯・調理など家事全般を入居者同士が、一緒に行う事で、対等な立場を保っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居後も、家族と外食・外出・外泊の機会を持ち 本人と家族の絆を大切にしている。家族とは情報交換を密に取り、口頭や電話の他に生活状況報告書を毎月送付している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との外出や外泊、家族以外との面会には制限を設けず、自由に関係を保つようにしている。	世話になったという方、叔父や叔母、息子のお嫁さんなどが訪ねてくる。ケアハウスの友人に会いに行く、デイサービスの行事に参加して特養の友人と会う。家族と馴染のお蕎麦屋さんに行く、また家族がお彼岸やお墓参りにお連れしたり、買い物に行く。また、定期的に外泊し、家族や兄弟と一緒に時を過ごすなど、馴染みの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事・談笑・散歩時など日々のコミュニケーションの中で利用者同士の関係を把握し、必要に応じて見守り・声かけ・介入を実施しているが、決して無理強いはいしないよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内特養に入所した家族とは今も交流があり、認知症カフェや施設イベントを通じて交流を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いや意向について、職員間で常に情報交換を行い、日々のかかわり、申し送りの中で情報共有する事に努めている。	これまで利用していた施設での基本情報などを参考にして、利用者のADL、家族情報、排泄、入浴、食事介助の程度の確認を行い、趣味や習慣、現在の生活状況を家族から聞き取っている。入居後、職員との会話の中から利用者がどのような生活を望んでいるのかなど、本当の気持ちの把握を図っている。また、利用者の発言や表情などの事象は客観的に介護記録に記載することを心がけ、利用者の意向に沿ったケアプラン作成につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に家族から情報を頂いている。又、ご本人との日々の会話から、これまでの生活や馴染みの暮らし方を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録やミーティング、申し送り等で情報共有し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族の面会時には、本人の様子をお伝えし相談・意見を頂いている。職員はケース記録、カンファレンスで意見を出し合っている。	ケアマネジャーは、入居後の介護記録の記載内容や職員からの情報を参考にして、利用者、家族の意向を考慮した課題を設定している。達成可能で具体的なケアプラン原案をカンファレンス時に職員に提案し、職員の意見を取り入れて作成している。入居後の状態の変化の原因や背景を考慮し、具体的なサービス内容に反映させている。半年ごとにケアマネジャーが短期目標毎のモニタリングを実施し、サービス担当者会議で家族の意見や職員の意見を取り入れてケアプランの見直しを行っている。	職員がケアプランを常に意識してケアにあたるように、全職員によるモニタリングの実施やケアプランを介護記録に添付する等の工夫が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に日々の暮らしや気づきを記入し、情報の共有をしている。口頭での申し送日も毎日行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者が発する様々なニーズに対応し、職員が柔軟な対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族から情報を頂き、個人に合った地域資源を活用出来るように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・家族の希望するかかりつけ医・医療機関にて家族の付き添いで受診しているが、必要に応じて同行受診や書面を通じて、施設での様子や状態を医師に伝え、適切な医療を受けられるよう支援している。	かかりつけの医への受診は家族とを原則としている。家族の都合により職員が同行することもある。必要に応じかかりつけ医宛に事業所での状況の変化などを家族に持参させている。受診後は医師からの指示事項や薬の変更などを家族から聞き取り介護記録や申し送りノートに記録し職員間の情報共有を図っている。処方された薬はトリプルチェックし確実な服薬管理を徹底している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日併設施設の看護師により、健康チェックの確認を行っている。体調不良時は看護師に相談を行い、アドバイスをもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時はメディカルソーシャルワーカーと連携を取り、情報の共有を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、併設の特養への申し込みの案内を行っている。重度化が予想される場合は、特養とも連携を取り、ご本人と家族にとって負担のかからない方法を検討している。	医療・治療が必要になった場合の事業所のできる事、できないことや看取り対応を行っていないこと等、重度化した際の事業所の方針を契約時に家族、利用者に説明し同意を得ている。法人内の他の施設の申込みなどの助言を行っている。また、法人内の相談員会議での情報共有や他施設の見学など、利用者、家族の意向に沿って対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急対応の研修は行っている。部署独自で緊急時の対応のシュミレーションを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害を想定した訓練は年4回行っている。訓練には地域の方にも参加して頂き、協力体制を築いている。災害用の持ち出し品の準備も日頃から行い、併設施設との連携体制も整えている。マニュアルを整備し会議で確認を行っている。	地震発生時の火災や風水害時の日中、夜間想定年4回の防災訓練を実施している。法人内の各事業所の職員が役割分担し実践的な訓練を行っている。自治会の住民による救出訓練や地域の避難訓練に利用者と共に参加し、地域住民との連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間でお互いの言動を指摘し合い、利用者のプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。マナー向上に努めアンケートを実施、結果を掲示する事で意識を高めあっている。	体操など集団で行うプログラムへの参加は利用者の気分に合わせて、無理強いをしないようにしている。居室で休息する人、好きな本を読む人など、一人ひとりの気持ちを大切にされた対応を心がけている。2か月毎にマナーに関する職員アンケートを実施し、良いマナー、悪いマナーを互いに指摘しあい、職員の振り返りにつなげている。また、言葉づかいや礼儀をわきまえた対応などの職員作成の「日めくりマナー標語」を事務所に掲示し、職員の意識向上につなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で数多くの選択肢を提供し、本人が選択出来るよう工夫をし、何がしたいのかを見極め支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・入浴以外の時間以外は、ご本人の望むことを支援している。入浴についても、なるべく希望に沿った対応を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一部の入居者はその日に着る服をご自分で選んでいる。迷っている・選択出来ないようであれば一緒に選び、楽しめるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	年間で期間を決め、毎週火曜日に昼食の献立・買い物・調理を入居者と行っている。普段の食事でも調理や配膳、食器洗いを入居者と行っている。昼食は職員も一緒に食事をしている。	利用者の食への関心と自立につながる「昼食づくり」を毎週実施している。チラン寿司などのメニューを職員と一緒に考え、多くの利用者がスーパーへの食材の買い物や食材切り、あえる、まぜるなどの調理、盛り付けに携わっている。また、定期的に利用者の希望を取り入れ、握りずしや釜飯などの出前料理を楽しんでいる。訪問歯科による「口腔ケア・マネジメント計画書」にそって、口腔内の状態の評価や咀嚼、嚥下機能の確認を行い、口からの食事摂取の維持を図り、食事形態の工夫などにつなげている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主菜等、食事の一部は併設の厨房より提供。食事・水分の摂取量が少ない場合は、時間をずらして個別に提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科の無料検診を受け、申し込み者は歯科衛生士又は歯科医師の口腔ケアを実施している。又、月に1度口腔ケア指導を受け、口腔ケア・マネジメント計画書を担当者が作成。それにもとづいた毎食後の口腔ケアを実施している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンを把握したうえで、定期的なトイレ誘導の声掛けや介助をし支援している。個々に合わせた介護用品の提案を行い、家族にも報告している。	車椅子対応の広いトイレには、転倒防止の手すりや便座横の可動式の支持台が設置され、安心して安全に排泄できるように配慮されている。利用者のほとんどがトイレでの排泄が可能であり、定期的な声かけや素振り、表情などの変化を観察し、スムーズなトイレ誘導により排泄の失敗を少なくしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩や運動、水分摂取にてなるべくトイレにて自然排便が出来るよう支援しているが、自然排便が困難な場合は主治医と相談し、下剤等の処方・服用も検討する。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	なるべくご本人のタイミングに合わせて声掛けをし、気持ちよく入浴して頂けるよう支援している。個浴を行っている。季節ごと菖蒲湯やゆず湯を楽しんで頂いている。	毎日個浴での入浴が可能であり、利用者は週2～3回、好きな時間帯に入浴を楽しみ、夏場のシャワー浴や清拭などの個別対応や季節ごとの菖蒲湯やゆず湯を提供している。浴槽は3方向からの介助が可能で、職員が利用者と思い出話や家族のことなどの会話をしながら利用者の状態に合わせた介助を行っている。浴室と脱衣所との温度差を少なくしてヒートショック防止を図るなど安全な入浴支援を心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝前に他者と談笑しながら温かい飲み物を飲んで頂き、安心して就寝して頂けるよう支援している。不安を訴えてこられた際には傾聴し、個々の状況に応じて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は処方箋の内容を確認、把握している。誤薬の無いように、2人以上の職員でダブルチェックを行っている。体調に変化があればケース記録に記入し、ご家族・主治医に報告を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意分野を把握し、楽しく役割分担が出来るように支援している。外食や外出の際は希望を伺い、皆で話し合っ決めて決める事もある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日頃から園内・近隣を散歩したり、買い物に同行したりして気分転換を図っている。定期的な外出や外食を企画し、ご家族も参加出来るよう促している。	天気の良い日は、園内の施設の周りを散歩したり、シルバーカーを利用して近隣の公園へ出かけ、サクラや藤の花、菖蒲などの植物を鑑賞し季節感を味わっている。「昼食づくり」の際は、近くのスーパーへ食材の買い物に行き、店員との会話を楽しんでいる。誕生日や毎月の受診後には、家族と一緒に和食レストランでの食事やスーパーでの買い物外出を行っている。	筋力の維持や気分転換を図るためにも、職員配置や業務内容を工夫し、散歩などの日常的な外出の機会を更に増やしていく取り組みに期待する



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭管理は施設で行っているが、個別に小遣い程度のお金を所持している方もいる。買い物では、ご自分で欲しい物を選んで頂くこともある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年家族には年賀状を出している。友人・親戚から手紙が届く事もあるが、返事を出していない。家族からの電話をつないで会話して頂くことはある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者と一緒に作った作品・装飾品をリビング・玄関等に飾り、季節を感じて頂けるように工夫している。	リビングでの利用者同士の会話や職員の優しい声かけが家庭的で明るい雰囲気を醸し出している。スーパーのチラシを閲覧する人、ソファで休息する人など自由な時間を過ごせるように配慮している。壁にはコスモスやキキョウ、アサガオなど利用者作成の折り紙の制作物が掲示され、季節感を感じさせる。また、玄関横の花壇の水やりやぶどう棚の収穫など、季節感と生活感を味わっている。毎日、利用者と一緒にフロアや廊下の掃除を行い、清潔な共有空間を作っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で趣味の編み物をされていたり、塗り絵や裁縫がお好きな方。居室やリビングで利用者同士会話を楽しむ方等、思い思いに過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅で使用していた馴染みのある家具や、ご本人の思い出の品を持ってきて頂き、居心地の良い環境作りをしている。居室扉の飾りも、入居者と一緒に製作している。	これまで自宅で使っていた愛用の整理ダンスや家族の写真、仏壇、テレビなどが、家族の協力により自由に持ち込まれている。居室の扉の横には大きな名前と利用者が作成した折り紙が掲示され、混乱せずに入室できるように工夫している。衣替え時期には家族の協力によりクローゼット内の整理や布団の交換を行い、利用者が快適に過ごせるように支援している。また、居室の温度、湿度管理を徹底し、利用者の健康維持を図っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーになっており、安全に生活して頂けるようになっている。場所を示すプレート等を取り付け、混乱せず生活して頂けるように工夫している。		